

2017年2月23日

SDGs「持続可能な生産と消費の具体化」～五輪の調達を好機に！～  
企業のためのシンポジウム

# リオ大会で講じられた 具体的な環境対策と サステナブル調達の仕組み

Value Frontier株式会社

取締役 梅原由美子

サステナブル・ビジネス・ウィメン

一般社団法人産業環境管理協会 CFP登録レビューア

# リオ大会の持続可能性

## オリンピックと持続可能性

- 1992年 地球サミット「アジェンダ21」
- 1994年 オリンピック精神  
(スポーツ)(文化)+(環境)
- 1999年 IOC版「アジェンダ21」
- 2012年 リオ+20、ロンドン2012大会
- 2014年 「オリンピック・アジェンダ2020」
- 2015年 「持続可能性に関するオリンピック競技大会ガイド」
- 2015年 国連サミット SDGs採択
- 2016年 リオ2016大会



OLYMPIC AGENDA 2020  
2020 RECOMMENDATIONS



## リオ大会の持続可能性

### 大会戦略:「地球」「人」「繁栄」

#### 2013年 持続可能性運営計画

- 全プロジェクトの**上位計画**
- 対策ごとに国、州、リオ市、組織委員会の**役割分担明示**
- 翌年各対策の**KPI設定**

2014年 サステナビリティ報告書(GRI\*)

2015年 国連グローバル・コンパクト署名

2016年 ISO20121 認証取得

2016年 カーボンフットプリント報告書

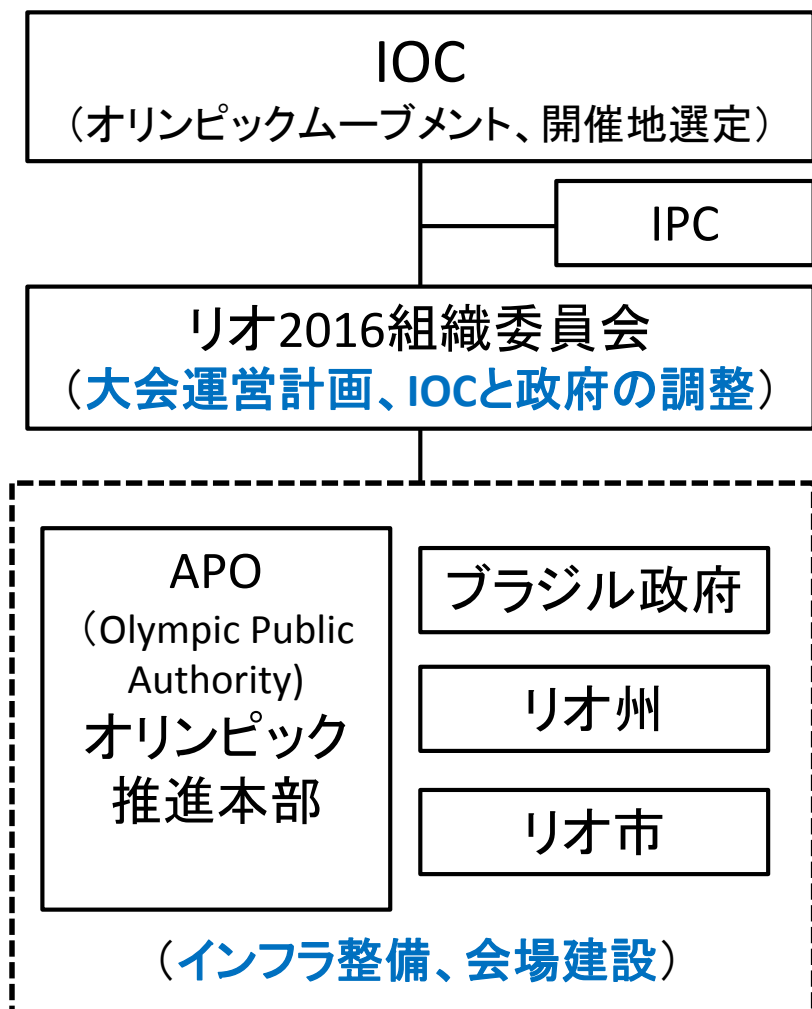
2016年 Pre-Game統合報告書 (IIRF\*)

\*GRI: Global Reporting Initiative

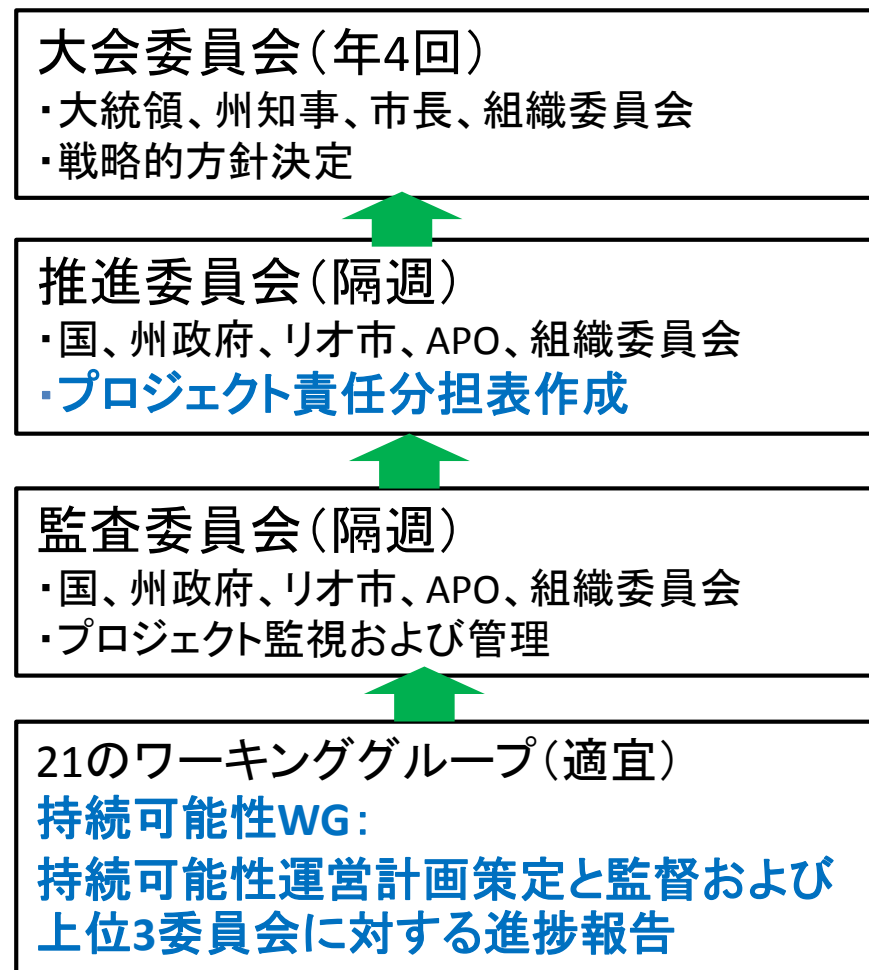
\*IIRF :International Integrated Reporting Framework

# リオ大会の持続可能性ガバナンス

## 【全体像】

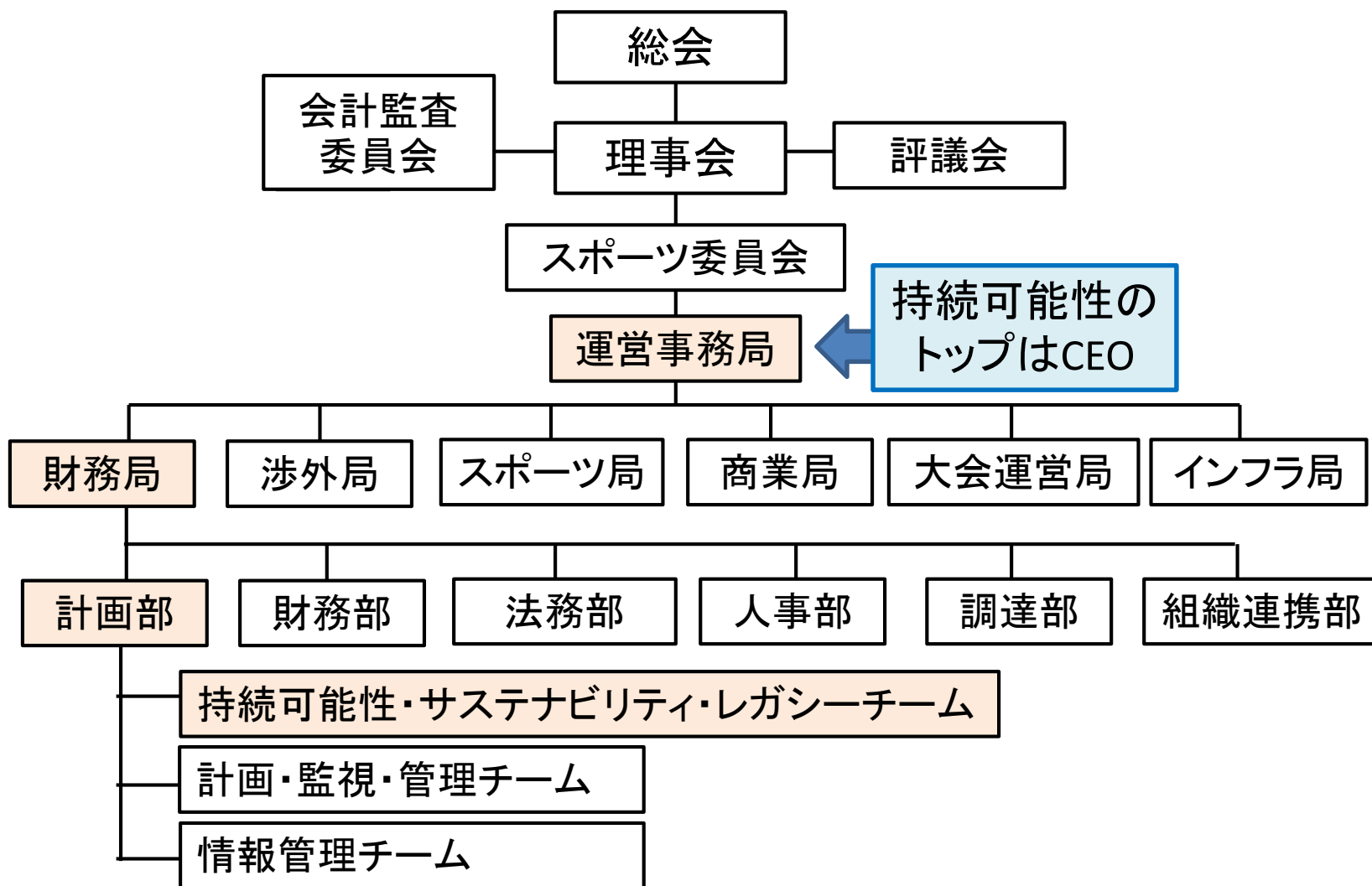


## 【組織委員会ガバナンス(外部)】



# リオ大会の持続可能性ガバナンス

## 【組織委員会ガバナンス(内部)】



# リオ大会のカーボンフットプリントと主な対策

## 【カーボンフットプリント】

製品・サービスの原材料調達、生産、輸送、使用、廃棄・リサイクルまでライフサイクルでCO2排出量を算定し「見える化」する手法

	CFP*と主な内訳	主な対策例
大会運営	<p style="text-align: right;"><u>計47万t-CO<sup>2</sup></u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-看板/仮設施設 16.3万t-CO<sup>2</sup></li> <li>-選手・関係者交通 8.7万t-CO<sup>2</sup></li> <li>-食事ケータリング 3万t-CO<sup>2</sup></li> <li>-会場電力 3万t-CO<sup>2</sup></li> </ul>	LCA分析、リサイクル素材 公共交通機関、バイオ燃料車両 持続可能な食材調達、廃棄物削減 省エネ、バイオディーゼル発電
会場建設	<p style="text-align: right;"><u>計71.5万t-CO<sup>2</sup></u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-会場 33万t-CO<sup>2</sup></li> <li>-選手村 14.7万t-CO<sup>2</sup></li> </ul>	サステナブル設計、遊牧建築 認証木材利用、LEED認証
観戦	<p style="text-align: right;"><u>計250万t-CO<sup>2</sup></u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-来場者交通 200万t-CO<sup>2</sup></li> <li>-ライセンス商品 30万t-CO<sup>2</sup></li> </ul>	公共交通機関、Green Passport リサイクル繊維、生産工程改善
インフラ整備	<p style="text-align: right;"><u>計86.7万t-CO<sup>2</sup></u></p>	
全体	<p style="text-align: right;"><u>計454万t-CO<sup>2</sup></u></p>	DOWプロジェクトで200万t-CO <sup>2</sup> 削減

\*ロンドン大会の手法を継承し「GHGプロトコル」に準拠して算定

# サステナブル・サプライチェーン

## サステナブル・サプライチェーン・ガイド

### 【対象】

従業員、パートナー  
サプライヤー、ライセンサー、スポンサー

### 【一般要求事項】

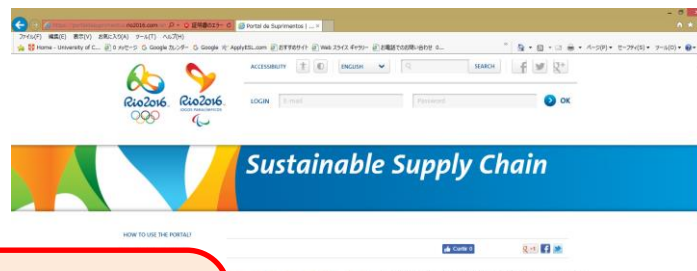
ISO9001/ISO14001/ISO26000/  
OHSAS18001認証取得(推奨)

### 【分野別ガイド】

- ✓ 食材調達ガイド
- ✓ パッケージ・ガイド
- ✓ 有害化学物質・素材ガイド
- ✓ プラスチック・ガイド
- ✓ スポーツ・フローリング・ガイド
- ✓ 木材製品ガイド
- ✓ 繊維製品ガイド
- ✓ 乗馬競技のための装飾ガイド

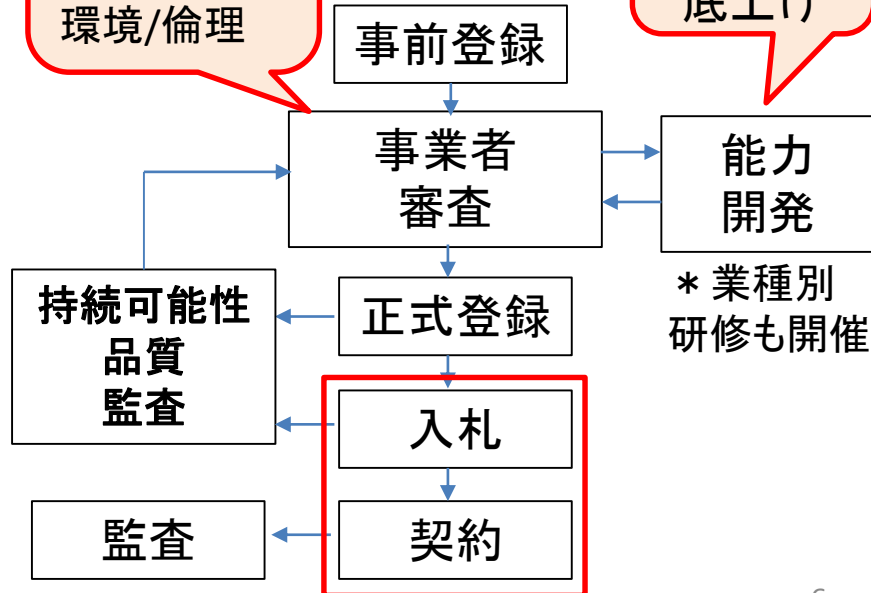
高い水準  
を要求

## 契約までのステップ



SEDEX  
労働基準/  
労働安全/  
環境/倫理

中小  
企業の  
底上げ



# サステナブル・サプライチェーン・ガイド

## 例) 木材・紙

全ての建設、大会準備や運営で使用される木材やその他の木材原料製品(紙など)は、100%リサイクル繊維か、FSC(Forest Stewardship Council)認証、またはBrazilian Forest Certification Programme (CERFLOR/ PEFC)、PEFCが推奨する類似のCoC国際認証製品でなければならない。リサイクル素材と非リサイクル素材が混ざっている素材については、非リサイクル素材部分は認証が必要である。サプライヤーは全てのサプライチェーンに関するCoC認証を提出しなければならない。木材サプライヤーは、リオ2016大会組織委員会から求めがあれば、供給木材が適法である証明を提出しなければならない。また可能な限り、紙製品については、高い割合で使用済み紙製品のリサイクル繊維のみで作られたものでなければならない(ABNT NBR 15755に示された最低レベルに従う)。FSC認証の木材製品に関する追加的なトレーサビリティとして、リオ2016大会組織委員会はFSC Online Claims Platform(OCP)を利用し、サプライヤーと消費者をつなげる。OCPは、FSC認証を受けた全ての製品について、サプライヤーと消費者がCoC認証の全ての情報にアクセスできるデータベースになっている。このツールにより、リオ2016大会組織委員会は、全てのサプライヤーと認証製品の監視が可能になる。これらの認証の詳細は、木材製品ガイドを参照すること。

# 持続可能な東京2020大会に向けて

## IOC「オリンピック・アジェンダ2020」

- 「提言4:オリンピック競技大会の**全ての側面に持続可能性を組込む**」
- 「提言5:オリンピック・ムーブメントの**日常業務に持続可能性を組込む**」

### 1. オリンピックの持続可能性

- 国、都、組織委員会からなる持続可能性のトップマネジメントを強化し、「**持続可能性運営計画**」を大会全プロジェクトの上位計画に位置付け、**適切な目標・KPI設定を!**
- スポンサー、NGO、学会、ユース等の多様なイニシアティブが連携し、**国や都、組織委員会も交えて対話できる場づくりを!**

### 2. 持続可能な生産と消費

- 調達プロセスを透明化し、あらゆる企業の参加を後押しすると共に、持続可能性を担保するための**監査等の仕組みづくりを!**
- 史上最も低炭素な大会を目指し、スポンサー、ライセンシー、サプライヤーは、五輪向け製品・サービスのライフサイクルにわたり**環境負荷の「見える化」と最大限のCO2排出量削減を!**
- 公式グッズ、食事、交通、宿泊など来場者の目に触れやすいところは、環境ラベルやエコ認証等を活用して、**積極的なコミュニケーションを!**